

あいめーる

AUTUMN

愛隣館通信

平成 29 年 10 月 25 日発行
発行
社会福祉法人 愛隣園
障害者支援施設 愛隣館
発行責任者 三浦貴子
編集 広報チーム
キャリーピジョン

〒861-0551
熊本県山鹿市津留 2022
TEL 0968-43-2771
FAX 0968-43-2793
http://aileans.com
E-mail
ailinkan@magma.jp



ポーランド代表選手へ：館長歓迎挨拶

八月八日(火)、2019世界ハンドボール大会が山鹿市を会場とすることに合わせ、ポーランド代表チームとの交流会が愛隣館食堂ホールにて行われました。この日は、児童養護愛隣園児、愛隣館入居者、デイケア、愛隣倶楽部ご利用の方が大勢参加されました。

熊本国際スポーツ事務局の進行に続き、館長挨拶。チーム代表で、ヘッドコーチ・レシェックさん、チームリーダー・ヒヨードルさん、プレーヤー・キングさん、モニカさん、ヨアンナさんの五名が紹介されました。

交流会ではポーランドやハンドボールについて質問に答えていただき、モニカさんの一九〇センチの身長に皆さん驚いていました。ボールを使ったゲームにも皆で盛り上がり、短い時間での触れ合いでしたが子供たちは選手にすっかりなついていました。園児を代表して、チームの皆さんへ手作りのメダルとお礼の言葉。館からはパステルアートをプレゼント。子どものポーランド語のあいさつにはチームの皆さんも涙ぐまれ、ひとり一人の作品を手に取り喜ばれていました。チームからは、選手全員のサイン入りユニホームとサインボール、そして全員にヒーンバッチをいただきました。最後は、熱いハグと涙で別れを惜しましました。



代表チームに手作りプレゼントの贈呈

JAPAN CUP 2017
ハンドボール交流会

十月三日から十五日まで、熊本城内の熊本県立美術館本館講堂にて、三回目となる生の芸術（アート・プロジェクト）展を開催しました。愛隣館は主催団体事務局です。

秋号
今年は一十一名の作家の百二十点の作品が、学芸員さんらの訪問調査により選ばれました。

作家の皆さん方が主役のオープニングセレモニーには、県・市をはじめとする関係者百名がご出席下さいました。作家の方々の喜びの表情と、応援したい周りの気持ちの満ちた温かい雰囲気であったことを報告します。

平成 29 年（2017 年）
あいめーる
おかげ様で、熊本新聞と放送局三社にも取り上げて頂き、期間中は、二千二百五十二名のご来場者を迎えました。

愛隣館通信
この展覧会は、東京オリンピック・パラリンピックの機運を盛り上げ、共生社会をめざす取り組みとして、beyond2020の認証を受けました。例年以上に、障害のあるご来場者が多く、必要に応じて個別エスコートをしています。また受付などの運営を、芸術活動をする県内施設にもお声がけして協力頂いているところです。

一方、愛隣館（入居・地域）利用者五十八名の作品を、県立美術館分館のくまもと障がい者芸術展に展示頂くことができました。陶芸・手芸・写真・絵

画と多種多様な作品です。

そして今夜は（十月五日）中秋の名月。愛隣館では、第二十七回月見の歌会があり、まさに芸術文化の秋を満喫しています。

人権擁護週間

サービス管理責任者

辻 啓司

八月三十一日（木）、愛隣館食堂ホールにて、山鹿市人権擁護委員協議会八名の皆さんによる人権擁護啓発活動が行われ、利用者四十名、通所利用者十名が参加されました。

先ず、館長あいさつ、続いて山鹿協議会の近藤会長の挨拶のあと、永田委員長より、人権擁護委員協議会の活動について説明がありました。

この日は、二部構成で行われ、第一部で「あいさつすると気持ちちんよか」の題名で、寸劇（啓発劇）があり、第二部では、ホールに特設相談所を開設し「ふれあいタイム」として、参加者と委員の皆



啓発劇「あいさつすると気持ちちんよか」

さんとの相談会が開催され、親切丁寧に参加者の話を聞かれました。

最後に、小物入れと人権擁護に関するパンフレット二部を参加者全員に贈られました。

新しい仲間

入居者

石井 達也



「ひとりぼっちではないから！」

八月一日より入所。新しい生活の場で皆さまに、お世話になっております。歌・音楽を聴く事、温泉でマッタリお湯にひたる事が大好きです。

自宅生活から環境を変え、最初は「あれれ？」「えっ？」「何々なにっ？」と感じたみたいです。愛隣館の皆さま、大家族の中で、時には泣く事も、怒った表情になる事も、さびしさを感ずる事もあると思います。

しかし、その二倍、五倍、十倍の笑顔を見せて過ぎて欲しい願いです。「顔を上げて、決してひとりぼっちではないから！」愛隣館の皆さま、どうぞよろしくお願い致します。

（代筆：家族）

平成二十九年度
月見の宴入選作品

三浦牧子名誉理事長賞

月を見て 思ひ出される 幼き日
後を追いかけて 走った私

後藤 雅子

満月を 知らず爆睡 してみたい

伊豆永鶴代

ぴあの月 あおいで想い出 走馬灯

アリエル(山下四季子)

池田 良子

ぼけたのか 何しに来たの? 台所

理事長賞

母と子の 安らぎのとき 風そよぐ
窓より入りし 秋の月光

古川 和代

草むしり たまあせ拭きで 木陰入り

有働 末義

健やかに 笑顔とけ込む 夏祭り
互いに呑んで 語り尽きなし

龍之介(下川 龍次)

愛隣荘賞
病床で にじむ満月 人恋し

古川 和代

短歌【月の部】

一席 寝る前に トイレに行くと もどりみち
空にひっそり 弓形の月

増田 正代

二席 月光の 水面灰皿 虫取網
在りし面影 偲ぶる夜

古川 和代

三席 流れ行く 雲の切れ間に 輝いて
姿を見せる 白銀の月

米崎 みどり

短歌【雑詠の部】

一席 恐竜の ような形した さ緑の
ロマンスを食む 吾も捕食者

河津政男

二席 秋の夜に 窓を開けて 耳済ます
遠く聞こえる 鈴虫の声

岩下 カ

三席 時流れ 遠い思ひ出 見え隠れ
なつかしさより 淋しさ増えた

伊豆永鶴代

俳句【月の部】

一席 君照らす 異国の月も 同じかな

増田正代

二席 月みれば 逝った人々 思い出す
もみじ(西村閑子)

増田正代

三席 うろろ雲 隙間から見る 白い月
ツクヨミ(富田正美)

ツクヨミ(富田正美)

俳句【雑詠の部】

一席 秋の風 ぶどう畑に ありがとう

有働末義

二席 夏休み 笑顔うれしい 孫たちよ

吉本やす代

三席 すすきの穂 おいでおいでと 人招く

大當由奇子

熊本日日新聞社 岩下写真部次長賞

満月を 益城で見たい 母隣

小嶺典子

熊本日日新聞社 潮崎山鹿支局長賞

数年後 閉校となる わが鶴城中学校
永遠に咲け咲け 校庭の桜

友枝正海

満月を 益城で見たい 母隣

満月を 益城で見たい 母隣

小嶺典子

明治学院大学 平野賞

母と子の 安らぎのとき 風そよぐ
窓より入りし 秋の月光

古川和代

(社) 恵寿会 渡辺理事長補佐賞

病床で にじむ満月 人恋し

古川和代

月を見て ウサギ信じた 幼き日

後藤雅子

(社) 恵寿会 高橋事務局賞

病室に 君はいないと 伝え聞く
楽しい思ひ出 月にかたりし

鶴崎さおり

数年後 閉校となる わが鶴城中学校
永遠に咲け咲け 校庭の桜

友枝正海

出雲サノム 北尾施設長賞

神無月 出雲へ行く 神たちに
願ひよ届け 満月の夜

ツクヨミ(富田正美)

母と子の 安らぎのとき 風そよぐ
窓より入りし 秋の月光

古川和代

山鹿燈心会 代表世話人 三浦賞①

燈籠の 木山神宮 見て偲ぶ
在りし姿の 想い出溢れ

小嶺典子

山鹿燈心会 代表世話人 三浦賞②

膝黒の 心の中に 月明かり

増田正代

特別賞

ミサイルを つくれるなら 難民に

田中鉄也

デイケア浴室 改修工事

デイケアサブチーフ

隈部 賢治

秋号 平成29年(2017年) 一ヶ月

七月下旬から八月二十六日までの一ヶ月間、浴室改修工事においてデイケア利用者様、愛隣館利用者様、職員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

以前の浴室では狭くなり希望通りの入浴が出来なかつた為、和室の六畳分を拡張し、脱衣室、浴室を広くしました。

おかげさまで、ゆとりのある安心安全な入浴が出来るようになりました。



脱衣場改修後

脱衣場改修前

り、利用者の方からは「脱衣場が広くなり周りを気にせずに着替えが出来るようになってよかった」と喜ばれ、入浴して頂ける様になりました。

飾り馬

九月十日(日)、若藤會の皆さん。十五日(金)、武蔵會の皆さんが来訪され、飾り馬が愛隣の家広場にて披露されました。

恒例行事となった飾り馬も去年は熊本地震により中止となり、二年ぶりの開催となりました。

三浦一水理

事長より挨拶があり、武蔵會とは三十年以上の長いお付き合いになるそうです。

早速、広場に祭りの音色が響き渡り、その祭りばやしに合わせて、元気に駆け回る飾り馬を皆さん一心に見学されていました。

最後に、参加された皆さんと飾り馬で記念撮影し思い出に残る日となりました。お忙しい中ありがとうございました。



若藤會：皆さんと飾り馬

※台風の影響により、本祭は十月九日へ延期となります。

ました。ますますのご活躍をお祈りします。

第十二回障がい者オセロ大会

九月二十三日(土)熊本県障害者スポーツ・文化協会主催で、熊本県社会福祉事業団の会議室・娯楽室にて、障がい者オセロ大会が行われました。

愛隣館から福原隆博さん、永田勝利さん、びあハウス利用の吉本やす代さんの三名が参加し(総勢三十二名)開催されました。

始めに、八組に組み分けし、組で対戦して勝ち抜いた人が決勝トーナメントに進出します。皆さんトーナメント進出。結果、福原さん三位、吉本さん五位、永田さん六位と皆さん入賞されました。

永田さんにお

話をお聞きしました。「初めての参加でしたが、沢山のひとオセロが出来て新鮮で面白かった。初参戦で六位入賞出来て嬉しかったです。次回は、上位を目指して頑張りたいです」と次も参加したいと意欲を語ってくれました。

おめでとございました。



入居者 後藤 雅子

皆さんこんにちは、九月一日に入居した後藤雅子です。

頸椎の病気で、車イスの生活を三十年ほど送っております。

趣味ではないんですが、もともと綺麗好きで、気が付いたら周りを粘着テープでコロコロしてる事が多々あります。

とにかく虫系が苦手なので、夏場など虫の多い季節はとても困っております。

これからお世話になる職員の方々の名前を、今まで休ませていた頭をフル回転させ憶えていきたいと思えます。あと、時間の余裕があれば色々な行事にも参加して行きたいと思えます。

どうぞよろしくお願ひ致します。

(聞き取り：広報部)



ケア課

城尾 幸一

新人職員紹介

皆さんこんにちは、今年の五月八日から愛隣館で

働かせて頂いております城尾幸一です。出身は菊鹿町で今も住んでますが、四年前まではインドネシア共和国に十年近く住んでいました。

前職は、工場で働いていたのですが、子供が生まれ、その子に障がいがある事に気付き、地元山鹿に戻ってきました。子供の事を思って仕事を探していたとき、愛隣館の募集を見つけ応募して働く事になりました。分からない仕事に手間取っていますが、少しずつケアの仕事を覚え頑張りますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

法人愛隣園夏祭り

八月二十六日(土)、恒例の愛隣園夏祭りが、愛隣の家の広場で行われました。



今年で二十四回目を迎える夏祭りには、各施設からの得意の屋台に加え、金魚すくいコーナーや、かき氷のコーナーなどもあり、それぞれのブースで行列ができるほどの盛況でした。特に焼きとりや焼肉のコーナーは例年のことながら行列が絶えることなく、スタッフの方々も汗ダクに

なりながら頑張っておられました。

舞台では入居者や利用者による出し物第一部と、新人職員による出し物第二部が各施設からそれぞれ元気いっぱい披露されました。また、山鹿バナナ叩き売り保存会の皆さんによる「バナナの叩き売り」や地域の方々によるハワイアンダンスショーもあり会場は盛り上がりました。

お楽しみ抽選会の後は、山鹿灯ろう保存会の皆さんによる幻想的な「山鹿灯ろう踊り」が披露され、最後に打ち上げ花火でフィナーレを迎えました。

地域の方々にも大勢ご来場いただき、地域に根ざしたお祭りとなったようです。

安全衛生委員会

愛隣館安全衛生委員会は、二十一名のメンバーで構成され、運営、調査審議事項などを定め、安全衛生管理活動の円滑な推進を図ることを目的とし活動しています。

毎月、会議を開催し、九月、十月は、職員の健康診断やストレスチェック、転倒災害防止に向けて話し合いを行い、就業前の準備運動・運動靴の着用徹底等を職員へ周知しました。

また職員に、施設内での危険箇所についてのアンケートをとり、危険箇所の抽出、マップ作りを行っています。

『あいめーる』の企画・編集は利用者で構成された広報チーム、キャリアピジョンが担っています。



月見の宴



俳句選評

十月五日(木)、愛隣館食堂に於いて、入居者、利用者、ご家族、職員が多数参加し、恒例の月見の宴が開催されました。

俳句選者の河野敏之です。今年は、全体的に粒選りの作品が多くて順位をつけるのに苦労しました。以下は、俳句の選評です。一部紹介します。

月の部

一席 増田正代さんの「君照らす異国の月も同じかな」

月を仰ぎ、異国の君に思いを馳せています。大きな俳句です、君を「夫」や家族の名前にすれば姿が鮮明に浮かびます。

「同じかな」の「かな」は、切れ字ではなく、口語体の疑問詞ですから「同じかも」とすればいいと思います。

「君照らす異国の月も同じかも」とすれば、異国の君と作者と月と一体感があります。

二席 西村閻子さんの「月見れば逝った人々思ひ出す」

「こちらは月を仰ぎ、亡くなった人々の俳句を作ることは供養になります。」

「逝った」は口語体ですから「逝きし」と文語体



にすれば良いと思います。

二席、富田正美さんの「うろこ雲隙間から見る日い月」

初めての作です。ズバリ添削しますと「うろこ雲その隙間から白い月」

実際、空を見ているのだから「見る」は言う必要がないのです。それを削って「その」を、添えたら、とてもリアルな俳句になりました。

雑詠の部

一席 有働末義さんの「秋の風ぶどう畑にありがとう」

自然への感謝、挨拶の句です。俳句は自然、人、動物、虫たちへの挨拶と言われています。

二席 吉本やす代さんの「夏休み笑顔うれしい孫たちよ」

ズバリ添削しますと「夏休み笑顔見せて孫たちよ」

「うれしい」は作者の気持ちです。この句を詠んだ人は「良かったですね」で終わりです。孫の笑顔を描けば、情景も姿も読んだ人の心に残ります。

三席 大當田奇子さんの「すすきの穂おいでおいでと人招く」

俳句は、このように外に出て良く見て作って下さい。それが俳句作りの基本です。

来年も力作をお待ちしています。